

第6章 にいみ遺産の一体的・総合的な保存と活用

1. 関連にいみ遺産群の意義と考え方

第3章で洗い出した歴史文化の特性は、それぞれ多種多様なにいみ遺産で構成されています。それらを地域の誇りにつなげ、構成するにいみ遺産を守り、その魅力や価値をわかりやすく伝えるためにストーリーとしてまとめます。ここでのストーリーは地域を横断し、長い歴史を縦断するものであることが望ましいと考えます。

明治時代以降複数の市町村が合併を繰り返してきた本市の各地域には、それぞれ特徴的な歴史文化が存在しますが、それらには共通する部分もあります。共通点を結びつけ、地域全体を特徴的なストーリーで伝えることにより、本市の魅力がより明確になります。

また、地域の人の営みは地域の自然と深く関係し、地域を思う人の心はその延長で作られてきました。文化財の類型や多寡^{たか}を越えて存在するにいみ遺産を、総合的に捉えて発信していくことは、本市の魅力をわかりやすく伝えることにもつながります。

そこで、歴史文化の特性に含まれるストーリーごとに、関連するにいみ遺産を類型や文化財指定の有無を問わずつなぎ合わせ、「関連にいみ遺産群」※とします。

※「関連にいみ遺産群」は文化庁の「文化財保護法に基づく文化財保存活用大綱・文化財保存活用地域計画作成等に関する指針」（令和7年3月最終変更）に示されている「関連文化財群」と同義で使用します。

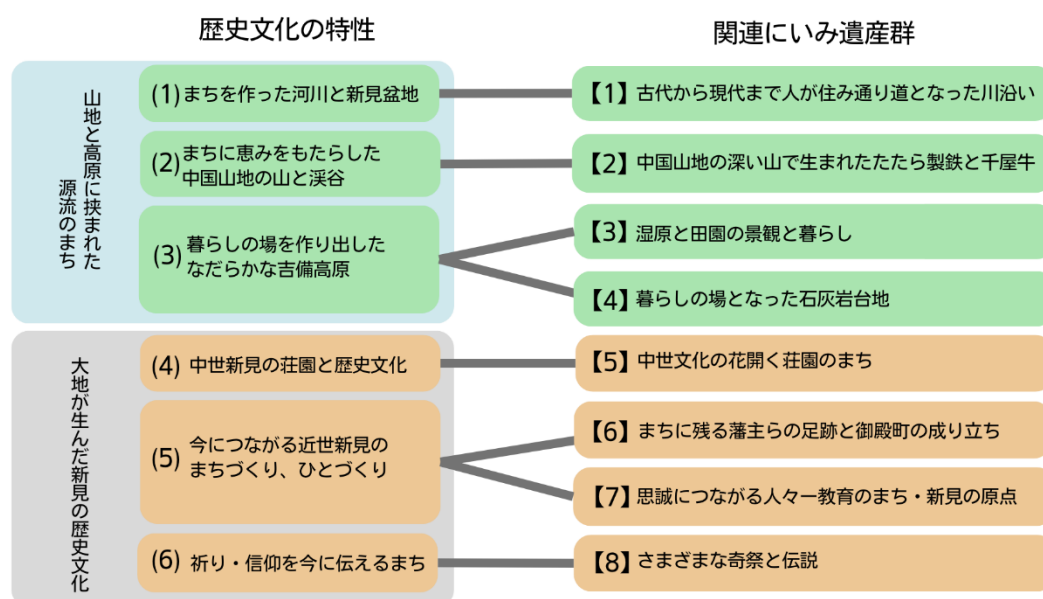


図 6-1 歴史文化の特性と関連にいみ遺産群

2. 関連にいみ遺産群及びその保存と活用計画

【1】古代から現代まで人が住み通り道となった川沿い

新見市を縦断する高梁川とその支流は、古代から現代まで人・物・文化の往来の場となり、盆地や平坦地に集落が形成されました。川沿いの人の流れは石器や土器の流通に始まり、新見特有の伝統芸能や食文化を創り出しました。

【ストーリー】

古代から現代まで、河川は人の往来の場で、それらが集まる盆地や平坦地に集落ができました。緩やかな地形で鳥取県側とつながる神郷高瀬地域には、旧石器時代からの野原遺跡群があり、また広島県側とつながる神代川沿いや美作地方との往来があった熊谷川沿いには、先史から古代の集落跡や墳墓が多く見られます。これらの地域では讃岐地域から来たサヌカイトや隠岐島の黒曜石や出雲地域のメノウなどの石器が出土しています。

本市を流れる河川はすべて高梁川水系に属しており、特に神代川・西川・本郷川・熊谷川・小坂部川が阿哲台の上流側で高梁川と合流しています。石灰岩からなる阿哲台の存在は、井倉峡の狭い峡谷をつくり、上流側に新見盆地を形成し、河川はそこに集約されました。新見盆地は中世新見荘や近世新見藩の中心地となり、市庭ができ、高瀬舟の発着地となりました。同様に小坂部川上流にできた小坂部盆地は中世に永富保・小坂部郷・多治部郷などができ、近世には水谷家が小坂部陣屋を置き、大佐小坂部地区の中心地となりました。

これら盆地を繋ぐ河川の人と文化の流れは、鯖寿司などの食文化を始め、後醍醐天皇の遷幸^{せんこう}伝説や玄賓にまつわる伝説、備中神楽【国】や秋祭りなどの伝統芸能にも影響を与えました。その後、この流通路は鉄道建設や現在の交通拠点として引き継がれました。



写真 6-1 野原遺跡群出土遺物
岡山県古代吉備文化財センター提供



写真 6-2 井倉峡



写真 6-3 後醍醐天皇の休石



写真 6-4 二本松国境跡【市】



写真 6-5 国境標【市】



写真 6-6 道しるべ「西山、瀬河内、吹谷、成羽」【市】



写真 6-7 鯖寿司



写真 6-8 備中神楽【国】

■関連にいみ遺産群【1】「古代から現代まで人が住み通り道となった川沿い」の
主な構成文化財

名称	区分(種別) 【指定区分】	概要
蓮華台燈籠	有形文化財 建造物 【市】	延宝 3(1675)年と刻まれ、本市の石燈籠の中で最も古い。高梁川の航路の難所に建てられており、舟運の安全を願って寄進したものとされている。

金毘羅常夜燈	有形文化財	建造物【市】	高梁川による舟運(高瀬舟)の航行安全を祈願して、文政10(1827)年3月10日に新見に建てられたものである。明治時代に現在地に移転された。
道しるべ 「西山、瀬河内、吹谷、成羽」	有形文化財	建造物【市】	江戸時代以降に造立された道しるべで、備後や吹屋、大山方面など行き来があったことがわかる。
岩山駅舎	有形文化財	建造物【未】	昭和4(1929)年、鉄道省作備西線(現 JR 西日本姫新線)の駅舎として上熊谷に開設された。
後醍醐神社	有形文化財	建造物【未】	後醍醐天皇が元弘の変で隠岐に流される際に、備中王居野(大佐大井野)で休息したと伝わる。地域民により、天皇の遺徳を忍び、現在地に社殿を造営された。
横見墳墓群 出土遺物一括	有形文化財	美術工芸品(考古資料)【市】	弥生時代から古墳時代初頭に築造された土壌墓群から出土した遺物一括資料である。山陰地方とのつながりを示す鼓形器台が出土している。
西江遺跡出土遺物	有形文化財	美術工芸品(考古資料)【未】	縄文時代晩期から中世の複合遺跡。弥生時代後期の墳墓群に伴って特殊器台と特殊壺、瀬戸内海から搬入された製塩土器が出土している。
野原遺跡群 出土遺物	有形文化財	美術工芸品(考古資料)【未】	旧石器から縄文時代の磨製石斧・磨製石包丁・打製石鏃のほか、サヌカイトや黒曜石の石器が見つかった。
備中神楽	民俗文化財	無形の民俗文化財【国】	備中地方(岡山県西部)一帯に伝承されている神楽。江戸時代後期、国学者の西林国橋が、記紀の神話をもとに芸能的要素の強い「神代神楽」を創造し、人気を得て広く伝承された。
鯖寿司	民俗文化財	無形の民俗文化財【未】	塩漬けの鯖を使用した棒寿司で、交通の便が悪かった当時、山陰から塩漬けにして運ばれてきた鯖を利用し、秋祭りなどのごちそうとして作られたといわれている。
狼穴住居跡	記念物	遺跡(史跡)【市】	大野部川の谷沿いの斜面にできた洞窟遺跡。縄文時代早期のものと思われる石製矢じり、石英岩の皮はぎ用石器、石器を作った安山岩の破片、獣骨片などが見つかった。
野田山遺跡	記念物	遺跡(史跡)【県】	弥生時代中期末の竪穴住居跡で、磨製石斧、打製石鏃などのほか壺や大型高坏などの弥生土器が多数出土している。
二本松国境跡	記念物	遺跡(史跡)【市】	備中国(哲西地区)と備後国(広島県庄原市)の国境跡である。旧街道に接し、同地には番所があった。
国境標	記念物	遺跡(史跡)【市】	本標石には、正面に「従是東 備中国」、背面に「哲多郡大竹村」と刻まれている。
野原遺跡群	記念物	遺跡(史跡)【未】	野原高原(神郷高瀬)で発見された旧石器から縄文時代の遺跡群である。
後醍醐天皇の休石	記念物	遺跡(史跡)【未】	後醍醐天皇が元弘の変で隠岐に流される際に、美作国から備中路に入り、大佐大井野から千屋井原に至った。その後、千屋花見に入り、休息を取ったとされる石及び地名を休石と呼ぶ。
井倉峡	記念物	名勝地(名勝)【未】	カルスト地形の阿哲台を高梁川がV字に刻み、狭い峡谷を作っている。高さ約240mの石灰岩の絶壁を見ることができる。

後醍醐天皇 の伝説	その他	【未】	後醍醐天皇が、隠岐に流される途中、神輿を降ろして休息 したと伝わる石や、馬を繋いだことにちなんだ地名「馬繋」 などが伝わっている。
玄奘僧都の 伝説	その他	【未】	玄奘は法相宗の興福寺の僧で、大同元(806)年に備中国 の湯川寺(土橋)に隠遁し、四王寺(哲西町大野部)と大椿寺 (哲多町花木)の開基とされる。その周辺には、玄奘に関わ る伝説が数多く伝承されている。



図 6-2 関連にいみ遺産群【1】の主な構成文化財の位置

■関連にいみ遺産群【1】「古代から現代まで人が住み通り道となった川沿い」の課題

- ・河川の交通や利用の歴史に係る資料や遺跡（史跡）に関して把握調査が不足しています。
- ・石造物に関して、近年災害等で滅失・毀損が懸念されることから把握調査が必要です。
- ・河川や街道など地形に関するまちの成り立ちについて学習機会が不足しています。
- ・後醍醐天皇や玄賓について伝説や史跡は多く残っているものの周知活動ができていません。

■関連にいみ遺産群【1】「古代から現代まで人が住み通り道となった川沿い」の方針

- ・高瀬舟や船着場、石灯籠など河川交通に関する把握調査を推進します。
- ・石造物が滅失していく前に記録保存するため計画的に把握調査を推進します。
- ・古代から現代に至るまちの成り立ちや後醍醐天皇などに関する伝説や史跡などについて、講座などの学習機会の提供を推進します。

■関連にいみ遺産群【1】「古代から現代まで人が住み通り道となった川沿い」の措置

措置		5 番 号 措 置	措置の概要	取組主体				実施時期			
				地域	所有者	専門機関	支援団体	行政	前期	中期	後期
(1)-1	高梁川などの舟運関係把握調査	1～3	高瀬舟など舟運に関するにいみ遺産について調査を行う。	△	△	○	—	◎			
(1)-2	石造物の把握調査	1～3	災害などで近年滅失、毀損が憂慮されることから石造物について把握調査を行う。	△	△	○	—	◎			
(1)-3	学習機会の創出	8	河川や街道など地形に関するまちの成り立ちや後醍醐天皇などに関する伝説について講座を開催する。	—	—	○	○	◎			

◎：主体となって取り組む ○：連携を行う △：連携体制を整えておく ■：期間中に実施する — — —：恒常的に行う

【2】中国山地の深い山で生まれたたたら製鉄と千屋牛

V字谷や峡谷が発達する中国山地は、薪炭や鉄の産地でした。砂鉄を利用した鉄を生み出すたたら製鉄と砂鉄を採取する鉄穴流しは、棚田やスキー場などのなだらかな地形を創り出しました。そして鉄の運搬などのため育てられた温厚で力持ちの牛の血統は現在の肉質の良い千屋牛に受け継がれています。

【ストーリー】

高梁川源流部にあたる中国山地にはV字谷が発達し、溪谷や滝などが見られます。特に流紋岩質の硬い岩石が分布しているところは、三室峡、阿哲峡、竜頭峡などの峡谷となっています。三室峡や御洞^{おどう}溪谷はシャクナゲ自生地として、黒髪山青龍寺と竜頭峡はアテツマンサクの自生地【市】として知られています。険しい山地ですがそこには多くの恵みがあり、人々は山地に入りました。鳴滝の急崖を越える用郷林道「七曲り」を作り、薪炭を運んだのはその例です。また中国山地は製鉄の材料である砂鉄を多く含む花崗岩地帯で、本市にはたたら製鉄に関する遺跡がいくつも残っています。中世の荘園には年貢として鉄を納めていた記録もあり、さらに近世には高殿たたらが作られ、鉄穴流しが実施されるようになりました。また鉄穴流しが盛んだった千屋や神郷高瀬地区などでは棚田が整備され、源流米が育てられ、鉄穴流しによる緩い斜面はスキー場などに利用されています。

たたら製鉄では大量の木材や鉄の運搬が必要となり、牛の飼育が盛んになりました。特に本市北部の神郷釜村地域では、難波元助・千代平親子によって牛の改良が行われ、良い血統の牛を残していく蔓牛が造成されました。その伝統は現在の千屋牛の畜産につながっています。

また鉄穴流しによって流された土砂は高梁川を流れ下り、たびたび下流の地域との争いのもととなりましたが、結果的に河口に平野をつくり、都市の形成につながりました。



写真 6-9 三室峡



写真 6-10 鳴滝



写真 6-11 用郷林道「七曲り」



写真 6-12 君山の大カンナ



写真 6-13 太刀 直胤【市】



写真 6-14 牛の碁盤乗り

■関連にいみ遺産群【2】「中国山地の深い山で生まれたたたら製鉄と千屋牛」の

主な構成文化財

名称	区分(種別) 【指定区分】	概要
元助表彰碑	有形文化財 建造物【市】	JR伯備線新郷駅にあり、銘文から難波元助が新見藩主の関長誠より親孝行の旨をもって、褒賞と激励を受けたことを記念して建てられた。
千屋神社	有形文化財 建造物【未】	文政 13(1830)年、太田辰五郎(1790～1854)が寄進し、神田藤左衛門により本殿が造営されたと伝わる。
太刀 直胤	有形文化財 美術工芸品(工芸品) 【市】	本刀は、鉄山業で財をなした太田辰五郎が、文政 8(1825)年に幕末期を代表する刀匠・莊司筑前大掾藤原直胤に注文して打たせたものである。
長巻 直胤	有形文化財 美術工芸品(工芸品) 【市】	太田辰五郎と親交を深め、作刀では西の大関と呼ばれた藤原直胤により千屋の鉄で鍛えられた長巻である。
太田文書	有形文化財 美術工芸品(古文書) 【未】	鉄山師の太田家(千屋実)の古文書群である。

牛の碁盤乗り	民俗文化財	無形の民俗文化財【未】	大正時代から昭和時代にかけて牛を手綱一本で自由自在に動かす調教技術が生み出され、岡山県立新見高等学校では、その技術を継承している。
大成山たたら製鉄遺跡	記念物	遺跡(史跡)【未】	中世から近代の製鉄関連の遺構のほか、幕末から明治時代に操業された高殿たたら巨大な床釣り構造が残る製鉄遺構が発掘された。
鍛冶屋床遺跡	記念物	遺跡(史跡)【未】	標高 680mにある製鉄遺跡で、製鉄炉の小舟状遺構や炉壁、鉄滓が確認されている。
君山の大カンナ	記念物	遺跡(史跡)【未】	君山(大佐大井野)にある鉄穴流しの跡である。東西約 150m、南北約 140m、高さ数 10mにわたり、斜面の土が取り除かれている。
太田家屋敷跡	記念物	遺跡(史跡)【未】	鉄山師として名を馳せ牛の畜産にも力を注いだ太田家の屋敷は、加賀前田家の江戸屋敷を模したとされる。現在は広大な屋敷跡に土蔵の一部などが残り、記念碑が建てられている。
三室峡	記念物	名勝地(名勝)【未】	中生代白亜紀の流紋岩質凝灰岩類からなる切り立った崖の峡谷で春のシャクナゲや秋の紅葉が美しい。
阿哲峡	記念物	名勝地(名勝)【未】	市街地から神郷下神代へ抜ける県道8号線沿いに連なる峡谷。流紋岩・凝灰岩が深いV字に刻まれている。
竜頭峡	記念物	名勝地(名勝)【未】	流紋岩からなる峡谷。鬼が出て往来の人々を襲うようになり、竜神に退治してもらったという伝説がある。
鳴滝	記念物	名勝地(名勝)【未】	硬い凝灰岩からなる滝。静かな日は、およそ2km離れた集落まで滝の音が聞こえたためこの名がついた。昔この滝で赤い牛に乗った仙人の姿を見たという言い伝えがある。
御洞溪谷	記念物	名勝地(名勝)【未】	春はシャクナゲが咲き、夏は花崗岩特有の滑らかな岩肌を利用したシャワートレッキングに利用されている。また冬は切り立った崖に氷柱ができることがある。
用郷林道「七曲り」	記念物	名勝地(名勝)【未】	高低差約 30m の難所を越えるためにつくられた道は幾重にもカーブが続いており、明治時代に建設された石垣が今も当時のままの姿で残っている。
青龍寺のアテツマンサク (アテツマンサク自生地)	記念物	動物・植物・地質鉱物(天然記念物)【市】	大正 3(1914)年に牧野富太郎が黒髪山青龍寺でアテツマンサクを発見・命名した。
三室峡のシャクナゲ群落	記念物	動物・植物・地質鉱物(天然記念物)【市】	約 1,000 本のシャクナゲが群生している。シャクナゲは、高山植物で春から初夏にかけて開花する。
大佐のシャクナゲ	記念物	動物・植物・地質鉱物(天然記念物)【市】	大佐ダムの北西部にある御洞の滝の絶壁上に、シャクナゲが群生している。また大佐上刑部にも群生地がある。
鉄穴流し地形	文化的景観	【未】	中国山地の風化した花崗岩を切り崩し大量の土砂を河川に流し砂鉄を採取していた。これにより山が削られ平坦になった跡地は水田や畑として開発された。

■関連にいみ遺産群【2】「中国山地の深い山で生まれたたたら製鉄と千屋牛」の課題

- ・本市では鉄滓が採取されたり、鉄穴流し跡などの製鉄遺跡が確認されたりしていますが、遺跡の把握・詳細調査が未実施です。
- ・太田家・安藤家などの鉄山師には、市・町史編纂事業等による調査を一部実施していますが、未調査のことが多い。
- ・たたら製鉄を知る機会が少なく、価値・魅力の発信が不十分です。
- ・牛を役牛として飼育していた時期の歴史や遺跡（史跡）について判然としません。

■関連にいみ遺産群【2】「中国山地の深い山で生まれたたたら製鉄と千屋牛」の方針

- ・製鉄遺跡の把握・詳細調査を推進します。
- ・太田家などの鉄山師について把握調査を推進します。
- ・たたら製鉄について学習機会を提供し、市内外への情報発信に努めます。
- ・郷土の産業史として役牛の歴史や遺跡（史跡）の把握調査を推進します。

■関連にいみ遺産群【2】「中国山地の深い山で生まれたたたら製鉄と千屋牛」の措置

措置		5 番 章 号 措 置	措置の概要	取組主体					実施時期		
				地域	所有者	専門機関	支援団体	行政	前期	中期	後期
(2)-1	製鉄遺跡の把握・詳細調査	1～3	市内全域の製鉄遺跡の把握・詳細調査を行う。	△	△	△	－	◎			
(2)-2	製鉄遺跡の情報発信	20・21	ホームページなどでの紹介や案内看板の設置により遺跡の情報発信を行う。	○	○	－	－	◎			
(2)-3	鉄山師の把握調査	1～3	鉄山師について把握調査を行う。	△	△	△	－	◎			
(2)-4	たたら製鉄の学習講座の開催	8	たたら製鉄について学ぶための講座を開催する。	－	－	△	○	◎			
(2)-5	役牛資料把握調査	1～3	役牛についての把握調査が未実施であるため、資料の整理など調査し、全体的に把握する。	△	△	△	－	◎			

◎：主体となって取り組む ○：連携を行う △：連携体制を整えておく ■：期間中に実施する — — —：恒常的に行う

【3】湿原と田園の景観と暮らし

哲西・哲多地域は、なだらかな田園風景が広がる吉備高原で、鯉が窪などの湿原が特徴です。豊かな水は神代和紙の製作につながり、なだらかな峠道は備後・安芸・高梁方面との交流を促し、頭打ちや神楽など、地域特有の行事が行われるようになりました。

【ストーリー】

吉備高原にあたる哲西・哲多地域は火山灰起源の黒ボクからなる田園地帯に阿哲富士とも呼ばれる荒戸山【市】が顔を出す景観が特徴的です。この地域は吉備高原上のなだらかな地域のため、谷の幅が広くここを源流とする神代川は北東に流れるのに対して、隣り合う大野部川の水は南西方向へ流れ、県境を越えて成羽川を経由し、高梁川に合流します。また本郷川は東方に流れています。これらの分水界で囲まれた起伏の小さな区域では鯉が窪湿原やおもつぼ湿原【市】などの湿地が形成され、貴重な植物群落が形成されています。なかでも鯉ヶ窪湿生植物群落【国】はオグラセンノウ、ビッチュウフウロなど隔離分布を示す希少植物のほか、寒地系の多くの植物が分布しています。また水が豊富で夏も涼しい吉備高原の哲西・哲多地域はリンドウの栽培に適しており、西日本最大級の産地です。

湿気の多い森では金蚩（ヒメボタル）が生息し、天王八幡神社境内はその発生地として県の天然記念物に指定されています。稲作も盛んなこの地域には太鼓田植【県】の風習が残されています。また7年に一度の矢戸の蛇神楽【県】では藁で作られた大蛇が田畑を駆け巡る姿が見られます。神郷下神代ではコウゾやミツマタが自生し、神代川の清流を利用し中世の頃から和紙がつくられ、神代紙として東寺などに献上されました。日本一の親子孫水車がある夢すき公園では紙すきを体験することもできます。

なだらかな吉備高原は南西方向にも連続するため、この地域は古くから広島県側（備後・安芸方面）との交流が盛んでした。明治時代には若山牧水が新見を訪れ、備後との国境付近の熊谷屋に逗留し、故郷の宮崎を目指しています。人の移動だけでなく文化の交流もあり、備中神楽【国】や蛇神楽などの神楽や頭打ち【市】などの行事がこの地域に多いのも、備後・安芸・高梁方面との交流があったことをあらわしています。



写真 6-15 荒戸神社本殿【県】

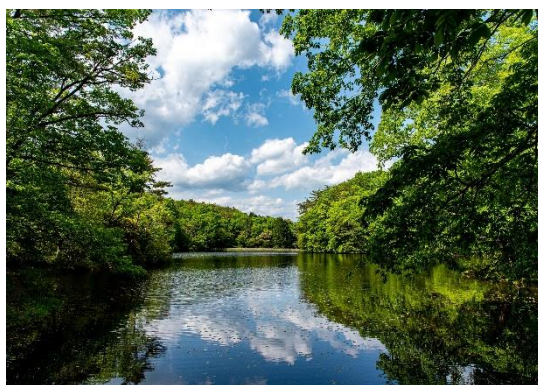


写真 6-16 鯉が窪湿原



写真 6-17 おもつぼ湿原【市】



写真 6-18 金螢発生地【県】

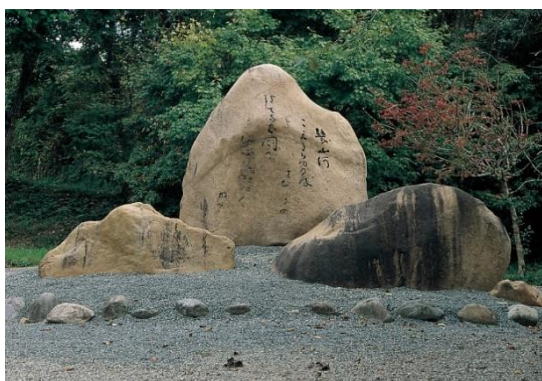


写真 6-19 若山牧水親子の歌碑



写真 6-20 頭打ち【市】

■関連にいみ遺産群【3】「湿原と田園の景観と暮らし」の主な構成文化財

名称	区分(種別) 【指定区分】		概要
荒戸神社本殿	有形文化財	建造物【県】	入母屋造、檜皮葺で向拝のない屋根形態は全国的に少なく古い形態とされる。また基壇を作らず、石敷とした床下の工法は古式のものである。
若山牧水親子の歌碑	有形文化財	美術工芸品(歴史資料)【未】	明治 40(1907)年、若山牧水は、郷里宮崎県への帰途、岡山県内を旅し、新見で短歌を詠んだといわれたことから、牧水の歌碑が建立され、後に夫人や子の歌碑も並んで建立された。
神代和紙の手漉技術	無形文化財	【未】	神郷下神代地内で漉かれている神代和紙の制作技術で、現在は神代和紙保存会が継承している。神代は、東寺などに紙を納めた記録がある地域である。
太鼓田植(哲西、神郷)	民俗文化財	無形の民俗文化財【県】	太鼓田植は、古くは田楽として平安時代に伝えられたとされている。太鼓に合わせて、田植歌が歌われ、「植え子」と呼ばれる花笠姿の早乙女が苗を植えていく。
頭打ち	民俗文化財	無形の民俗文化財【市】	子どもが鐘や太鼓に合わせて、頭に花笠や尾長鶏などの飾りをつけて踊り、五穀豊穡を祝う伝統行事。
熊谷屋敷跡	記念物	遺跡(史跡)【市】	明治 40(1907)年、若山牧水が学生の頃、郷里宮崎県へ向けて旅をした際に宿泊した茶屋熊谷屋の跡地である。
鯉ヶ窪湿原	記念物	名勝地(名勝)【未】	本市の西部、広島県との県境付近にある標高約 550m の鯉ヶ窪池と周辺に広がる湿原。沼沢地で、地元では「沢っ田」と呼ばれている。
鯉ヶ窪湿生植物群落	記念物	動物・植物・地質鉱物(天然記念物)【国】	オグラセンノウ・ビッチュウフウロ等の希少植物などが分布する西日本の代表的な湿生植物群落として学術上の価値が高い。
金螢発生地	記念物	動物・植物・地質鉱物(天然記念物)【県】	湿潤な森林を好む金螢(ヒメボタル)は「森のホタル」と呼ばれ、自然環境の指標としても知られている。天王八幡神社の社叢では 7 月上～中旬に多数乱舞する。
おもつぼ湿原	記念物	動物・植物・地質鉱物(天然記念物)【市】	湿生植物は上流側において良く発達し、下流側に至るにつれて沼沢性が強くなっており、全体として変化に富んだ植生を有する。調査結果では、107 種が確認されている。
荒戸山	記念物	動物・植物・地質鉱物(天然記念物)【市】	鍋を伏せた形をしているため、昔から「鍋山」として親しまれている。新生代新第三紀中新世の終わりごろ、噴出した玄武岩が浸食されて残ったもの。柱状節理がみられる。

■関連にいみ遺産群【3】「湿原と田園の景観と暮らし」の課題

- ・市民や観光客に対して湿原を案内できる人材が不足しています。
- ・国天然記念物である鯉ヶ窪湿生植物群落の保存活用計画が未作成です。
- ・湿生植物を見ることができない時期について来場者への取り組みが少ないです。
- ・本市に関連する文学者が多いものの周知されていません。
- ・吉備高原の特有の地形や貴重な動植物についての学習機会が不足しています。

■関連にいみ遺産群【3】「湿原と田園の景観と暮らし」の方針

- ・鯉ヶ窪湿原やおもつば湿原のガイドを育て、観光や生涯学習の分野で活躍できるよう支援します。
- ・鯉ヶ窪湿生植物群落の保存活用計画を作成します。
- ・時期外れの植物の鑑賞や学習ができるようデジタルコンテンツの作成を目指します。
- ・本市関連の文学者の顕彰活動の推進を支援します。
- ・吉備高原の特有の地形や本市の貴重な動植物の講座を開催します。

■関連にいみ遺産群【3】「湿原と田園の景観と暮らし」の措置

措置		置 5 番 章 号 措	措置の概要	取組主体				実施時期			
				地 域	所 有 者	専 門 機 関	支 援 団 体	行 政	前 期	中 期	後 期
(3)-1	湿原ガイドの養成	9	湿原の魅力を市内外の人に解説・案内できるガイドを育成するための講座を実施する。	—	—	△	○	◎			
(3)-2	鯉ヶ窪湿生植物群落保存活用計画の作成	13	鯉ヶ窪湿生植物群落の保存活用計画を作成し、適切な保存と活用を行う。	—	—	○	—	◎			
(3)-3	湿生植物のデジタルコンテンツ作成	25	湿生植物が咲いていない時期でも観賞することができるようデジタルコンテンツを作成する。	—	—	○	—	◎			
(3)-4	市に関連する文学者の顕彰事業への支援	10	若山牧水や田山花袋など市に関連する文学者を顕彰する事業などへの支援を行う。	—	—	—	—	◎	—	—	—
(3)-5	特有の地形や動植物に関係した講座の実施	8	新見市の地形的特徴や貴重な動植物について人々の生活と結びつけた講座を開催する。	—	—	△	○	◎			

◎：主体となって取り組む ○：連携を行う △：連携体制を整えておく ■：期間中に実施する ■■■：恒常的に行う

【4】暮らしの場となった石灰岩台地

阿哲台は石灰岩台地で、鍾乳洞や天然橋など特有の地形が発達しています。台地上は集落ができ、石灰岩地域の水はけの良さを利用して、ピオーネやカルスト大根などの栽培が行われ、また鍾乳洞は信仰の場として使用されるようになりました。

【ストーリー】

阿哲台にはかつてサンゴ礁だった石灰岩とその周辺の海底に溜まった地層や玄武岩の層が交互に折り重なって分布しています。石灰岩地域にはドリーネやカレンフェルトなどの特有の地形があり、その地下には県の天然記念物である井倉洞・満奇洞・宇山洞・秘坂鍾乳穴などの鍾乳洞があります。またそのような鍾乳洞の天井が崩落して天然橋として残った羅生門は国の天然記念物として知られ、観光客が多く訪れます。そこではさまざまな希少な苔類などを見ることができます。一般に石灰岩からなるカルスト台地には集落はできにくいのですが、阿哲台ではむしろ積極的に石灰岩の部分が集落や農地として使用されており、人々はかつてのサンゴ礁の上で生活しているとも言えます。宇山洞や秘坂鍾乳穴で代表されるドリーネの縁にできた吸い込み口型の鍾乳洞が多い阿哲台では、陥没ドリーネが少ないため、人々は石灰岩地域を集落や畑として積極的に使用することができるのです。中には草間台の井倉野のように、ドリーネの底に集落があるという特徴的な景観に巡り合うこともできます。

石灰岩台地上は水はけがよく、大きな川もなく水に乏しいため、農産物は野菜類や果樹を主体とし、昼夜の寒暖差が大きいこともあって、色づきがよく甘いピオーネがつくられました。また、かつては葉タバコの生産が主要な産業でした。さらに火山灰からなる黒ボク土を利用したカルスト大根の栽培も盛んです。

阿哲台の大部分は高梁川上流県立自然公園に属していますが、それ以外の部分の石灰岩地域ではセメントや化学工業品の原料などとして採掘が盛んで、新見の主要な産業です。

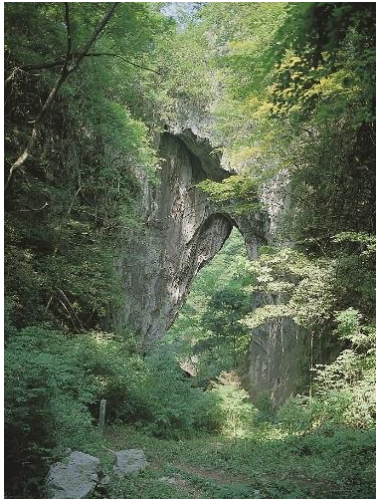


写真 6-21 羅生門【国】



写真 6-22 草間の間歇冷泉【国】



写真 6-23 縞嶽【県】



写真 6-24 萬歳の泉【市】



写真 6-25 絹掛の滝【市】



写真 6-26 ドリーネ内の集落

■関連にいみ遺産群【4】「暮らしの場となった石灰岩台地」の主な構成文化財

名称	区分(種別) 【指定区分】		概要
萬歳の泉	記念物	遺跡(史跡) 【市】	萬歳の泉は石灰岩でできている無明谷の上流側の水が地下にしみ込み、石灰岩がなくなる所で湧き出したもの。
絹掛の滝	記念物	名勝地(名勝) 【市】	阿哲台と高梁川との落差によって生じた滝。岩壁に白く絹の帯を垂らしたような優雅な滝であることが名前の由来である。
阿哲台の地形景観	記念物	名勝地(名勝) 【未】	標高 400~500m、東西 15~18km、南北 12km の石灰岩台地である。台地を南北に流れる高梁川によって西から石蟹郷台・草間台・豊永台及び北側の唐松台に区分される。
羅生門	記念物	動物・植物・地質 鉱物(天然記念物) 【国】	標高 400m 前後の草間台のドリーネにできた石灰岩の巨大なアーチである。鍾乳洞の天井が陥没し、一部が残存してアーチ状になったもの。
草間の間歇冷泉	記念物	動物・植物・地質 鉱物(天然記念物) 【国】	間歇泉で、冷泉であるのは全国的に珍しい。地下の石灰洞に水が溜まり、一定量を超えたときにサイフォンの原理で地下水が噴出すると考えられている。
縞嶽	記念物	動物・植物・地質 鉱物(天然記念物) 【県】	石灰岩の地層が花崗岩の熱で変成作用を受け硬い岩石になったもの。縞模様が美しい。
井倉洞	記念物	動物・植物・地質 鉱物(天然記念物) 【県】	高梁川の絶壁に開口する鍾乳洞。全長は 1,200m に及び、カーテン、石筍、石柱が発達し、さらにかなり落差のある岩壁を落下する滝などがある。
満奇洞	記念物	動物・植物・地質 鉱物(天然記念物) 【県】	総延長約 450m の観光化された鍾乳洞。洞内のいたるところに多数の鍾乳石、石筍が並び立ち、竜宮、亀石、臥牛等の諸名所があって奇勝に満ちている。
宇山洞	記念物	動物・植物・地質 鉱物(天然記念物) 【県】	総延長 1,000m をこえる裂か型吸い込み穴。洞内からナウマン象の歯の化石が発見されている。
秘坂鍾乳穴	記念物	動物・植物・地質 鉱物(天然記念物) 【県】	県下屈指の巨大な洞口の裂か型吸い込み穴。日畔坂鍾乳穴神社の御神体。日畔坂鍾乳穴神社は「延喜式」にも記された古社。洞内の鍾乳石は石鍾乳と称して薬用に採集された。
草月洞	記念物	動物・植物・地質 鉱物(天然記念物) 【市】	入口は狭いが5m 程入ると広さ約 15 m ² あり、高さは約5 m ある。洞内には鍾乳石、石筍などのほか、洞窟さんご、カーテンなどの奇岩が生成されている。
無明谷の石灰岩地植生	記念物	動物・植物・地質 鉱物(天然記念物) 【未】	典型的なカルスト谷で、高さ 50mほどの切り立った石灰岩の崖が続く狭い谷。断崖にはイワシデやチョウジガマズミなどの群落が形成され、横穴の鍾乳洞も見られる。
ドリーネ内の集落	文化的 景観	【未】	ドリーネとはカルスト台地にできる窪地のことで、阿哲台では、全国でも珍しいドリーネの中に集落がある地域で、水はけのよさからピオーネの栽培などにも利用している。

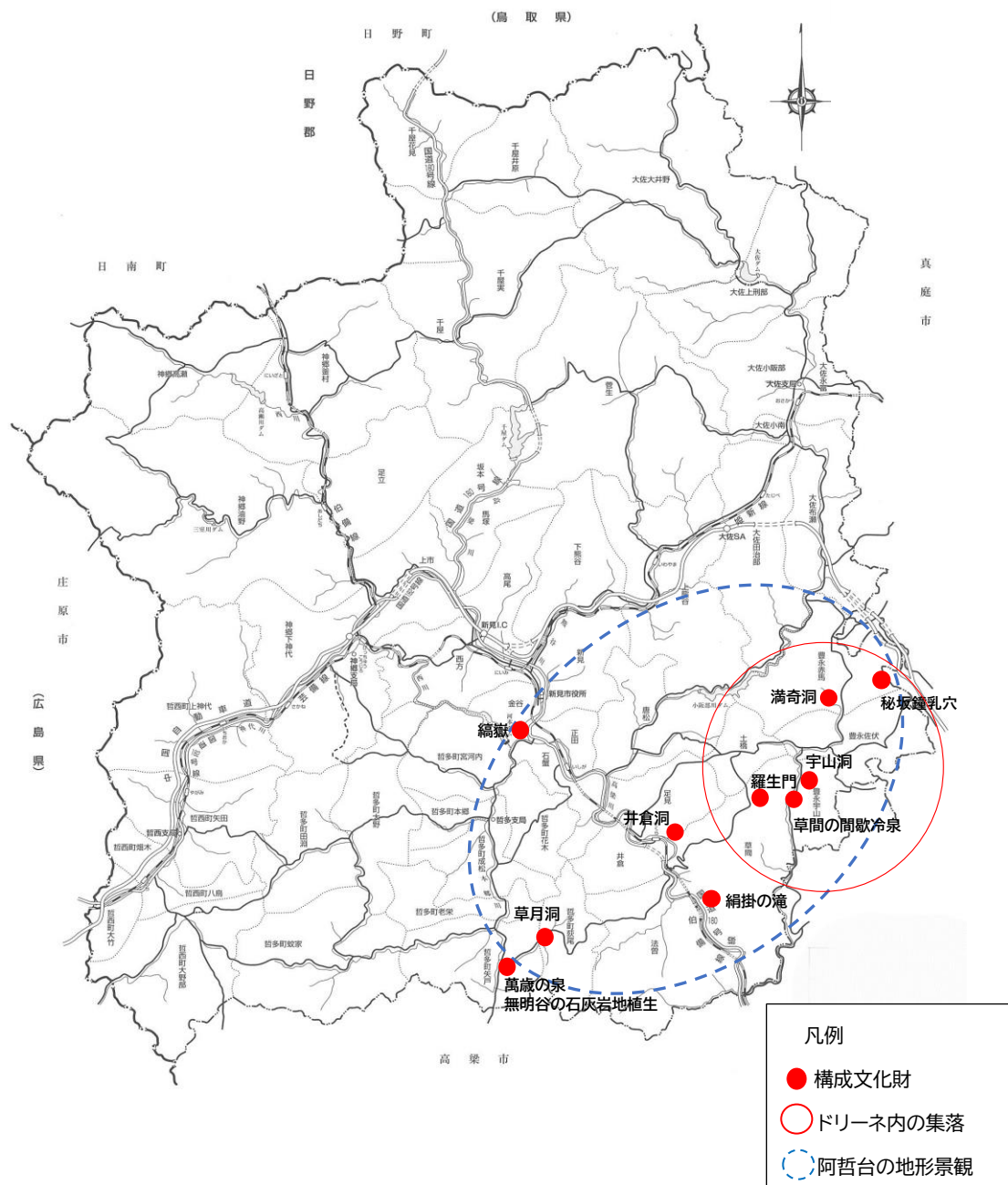


図 6-5 関連にいみ遺産群【4】の主な構成文化財の位置

■関連にいみ遺産群【4】「暮らしの場となった石灰岩台地」の課題



- ・行政や大学機関で鍾乳洞の把握調査を実施していますが、未調査のものも多いことから、把握調査が必要です。
- ・国天然記念物の羅生門について測量調査や保存活用計画が作成できていません。
- ・観光洞に見られる鍾乳石の緑化現象への対策が十分できていません。
- ・石灰岩など新見に特有の地質について魅力発信が十分にできていません。

■関連にいみ遺産群【4】「暮らしの場となった石灰岩台地」の方針

- ・本市にある鍾乳洞をこれまでの調査資料や文献をもとに把握調査を行います。
- ・羅生門の自然環境保護に向けた計画の立案や調査、自然や景観を損なわない適正な整備を行います。
- ・満奇洞などの緑化現象について専門家などと連携して適正な維持管理を行っていきます。
- ・本市の特殊な地質について情報発信することで自然保護意識の醸成を図ります。

■関連にいみ遺産群【4】「暮らしの場となった石灰岩台地」の措置

措置	5 番 号 措 置	措置の概要	取組主体					実施時期		
			地域	所有者	専門機関	支援団体	行政	前期	中期	後期
(4)-1 鍾乳洞の把握調査	1～3	市内全域の鍾乳洞の把握調査を行う。	△	△	○	—	◎			
(4)-2 羅生門の測量調査	1～3	羅生門の保存管理計画の作成する上で必要なデータを得るため詳細な測量調査を行う。	—	—	○	—	◎			
(4)-3 羅生門の保存活用計画の作成	13	羅生門の保存活用計画を作成し、適切な保存と活用を行う。	—	—	○	—	◎			
(4)-4 羅生門周辺の環境整備	20	観光客が来場しやすく、また貴重な自然環境を損なわないよう環境整備を行う。	○	—	△	△	◎			
(4)-5 観光洞の緑化現象に対する支援	—	観光洞の鍾乳石の緑化現象（コケの増殖）対策への支援を行う。	○	○	△	—	◎			
(4)-6 石灰岩など地質についてのパンフレットの作成や案内看板の設置	22	石灰岩を中心に新見市の特殊な地質などを紹介・説明するパンフレットや案内看板を作成し、合わせて多言語化を促進する。	—	—	△	—	◎			

◎：主体となって取り組む ○：連携を行う △：連携体制を整えておく ：期間中に実施する ：恒常的に行う

【5】中世文化の花開く荘園のまち

中世に開発された荘園のうち、大きなものとして新見荘や神代野部御厨があり、紙や鉄などが年貢として納められていました。中世は宗教文化が発展した時代で、多くの社寺が作られ、石造物や木像が残されました。

【ストーリー】

中国山地と吉備高原の間にある新見盆地をはじめ、河川の合流部や小盆地には、平安時代末期から複数の荘園が開発されました。特に東寺の荘園である新見荘や伊勢神宮の荘園である神代野部御厨が著名です。

新見荘は当初後白河法皇に縁の最勝光院を本家として成立し、その後南北朝時代に東寺の荘園となりました。東寺に伝来した「東寺百合文書」をはじめとした多くの文書によって、荘園の設立、年貢や公事の課役、裁判関係の相論、高梁川の船運などに関する記録が把握されています。記録の中には石造薬師如来坐像【県】の「石堂」、三日市庭跡や二日市庭跡の「市庭」「八幡」「観音寺」などの地名や寺院名が現在に伝わっています。また、その文書の中でも異彩を放つのが「しょうじょうならびにびつちゅうのくにいみのしょうだいかんゆうせいいひんちゅうもんたまかき書状 并 備中国新見庄代官祐清遺品注文」、通称「たまがき書状」です。これは寛正 3（1462）年、領家方の直務代官であった祐清の身の回りの世話をしたそうついぶし惣追捕使の福本盛吉の「きょうだい」であるたまがきが、祐清の死後、形見分けを東寺に求めた書状で、祐清とたまがきの物語は今も市民の心に深く刻まれています。祐清の活動とも関わりのあった江原八幡神社や地頭方政所跡が今も残っています。

また紙・漆・鉄などが生産され、年貢とともに荘園領主に納められていました。鉄は、神郷高瀬地区で製鉄されていた記録が残っており、鍛冶屋床遺跡などの製鉄遺跡が確認されています。神代野部御厨は同じように鉄を納めていた記録を残している荘園です。神代郷と野部郷を中心に開発された荘園で、荘域内では大成山たたら遺跡やみたにとこ三谷床ばたけ遺跡などが確認されています。さらに、ここで漉かれた紙は、良質であったため、新見荘の代官が市庭で買い、年貢として納めています。

中世は宗教文化が開花する時代で、新見においても多くの社寺が開かれ、木造阿弥陀如来座像などの仏像や、延命の願いを込めた地蔵や五輪塔が造立されました。時代が下るにつれ、武士の勢力が大きくなり、荘園もその支配下に置かれるようになりました。攻守の要として街道沿いや河川の要衝の山上には、ゆずりは城や塩山城など多くの山城が築城され

ました。



写真 6-27 三日市庭跡



写真 6-28 江原八幡神社



写真 6-29 木造阿弥陀如来座像
(善成寺公園内)【市】



写真 6-30 石造延命地蔵【県】



写真 6-31 宮座【市・国選択】



写真 6-32 ゆずりは城跡【市】

■関連にいみ遺産群【5】「中世文化の花開く荘園のまち」の主な構成文化財

名称	区分(種別) 【指定区分】	概要
矢田石仏	有形文化財 建造物 【県】	鎌倉時代の文永 2(1265)年造立。凝灰岩の自然石に阿弥陀如来坐像が線彫りされている。像の左右に銘文が彫られており、供養のために造立されたものと想定される。
石造宝台寺五輪塔	有形文化財 建造物 【県】	元徳 2(1330)年の造立。花崗岩製。源頼朝が家臣の梶原景時に命じて本堂を建立させ寄進したという伝承があり、この五輪塔は俗に「梶原の塚」と呼ばれている。
石造薬師三尊像	有形文化財 建造物 【県】	嘉元 4(1306)年の作。右脇に「東福寺 沙弥清佛 大和是永」と銘文が彫られている。清佛は薬師三尊の開眼僧、大和是永は石工で京都東福寺に所属していた人物とされる。
石造延命地蔵	有形文化財 建造物 【県】	和泉砂岩製の地蔵で、3 躰すべて正平 12(1357)年に造立されている。新見付近への地蔵信仰の広がりを物語っている。通称「朝間地蔵」「昼間地蔵」「段の腰折地蔵」という。
石造延命地蔵菩薩立像	有形文化財 建造物 【県】	西方と神郷下神代を結ぶ旧道の上金子地内の地蔵堂にあり、通称「夕間地蔵」と呼ばれている。和泉砂岩製。
石造延命地蔵菩薩坐像	有形文化財 建造物 【県】	和泉砂岩を舟形に加工し、正面に蓮華座に坐す延命地蔵を厚肉に彫り出している。
江原八幡神社	有形文化財 建造物 【未】	寛正 2(1461)年に新見荘の百姓は代官の安富智安の悪政に耐えかねて追放した。その際、百姓たちは江原八幡神社に集まり、誓いを立てて、結束を固めたと伝わっている。
新屋の塔	有形文化財 建造物 【未】	土橋にある石灰岩の積石基壇上に造立された結晶質石灰岩製の宝篋印塔である。
木造千手観音両脇土像	有形文化財 美術工芸品(彫刻) 【国】	三尾寺の本尊で、寺伝によると、中尊の千手観音坐像は寺の南西にある愛宕山の草庵で行基自らが彫刻し、両脇土像は空海が彫り本尊の脇土として安置したといわれている。
木造阿弥陀如来座像(善成寺公園内)	有形文化財 美術工芸品(彫刻) 【市】	本像を本尊としていた善成寺は、新見荘の直務代官であった祐清の葬儀を行った寺院である。
宮座	民俗文化財 無形の民俗文化財 【市・国選択】	中世の新見荘の時代に、名主が寄り集まって氏神をまつり、団結と権威を示したのが宮座の興りである。
塩山城跡・脇嶽	記念物 遺跡(史跡) 【市】	連郭式山城で、多治部氏が築城したとされる。主郭の南東側に長さ約 25m、幅約 15mの曲輪や高さ2mの石垣が残されている。
ゆずりは城跡	記念物 遺跡(史跡) 【市】	三村元範が拡張・整備を進め、支城も整備した。本城跡は、連郭式山城で、本丸・二の丸・三の丸からなる。備中地方北部では、備中松山城に次ぐ規模を誇る。

地頭方政所跡	記念物	遺跡(史跡)【未】	平安時代に開発された新見荘は鎌倉時代に下地中分で領家方(西方)と地頭方(東方)に分けられた。現在も屋敷地、堀跡と想定される遺構が残る。
三日市庭跡	記念物	遺跡(史跡)【未】	新見荘の時代、毎月「3」の付く日に三斎市が開かれたので、この地域は古くから三日市と呼ばれている。

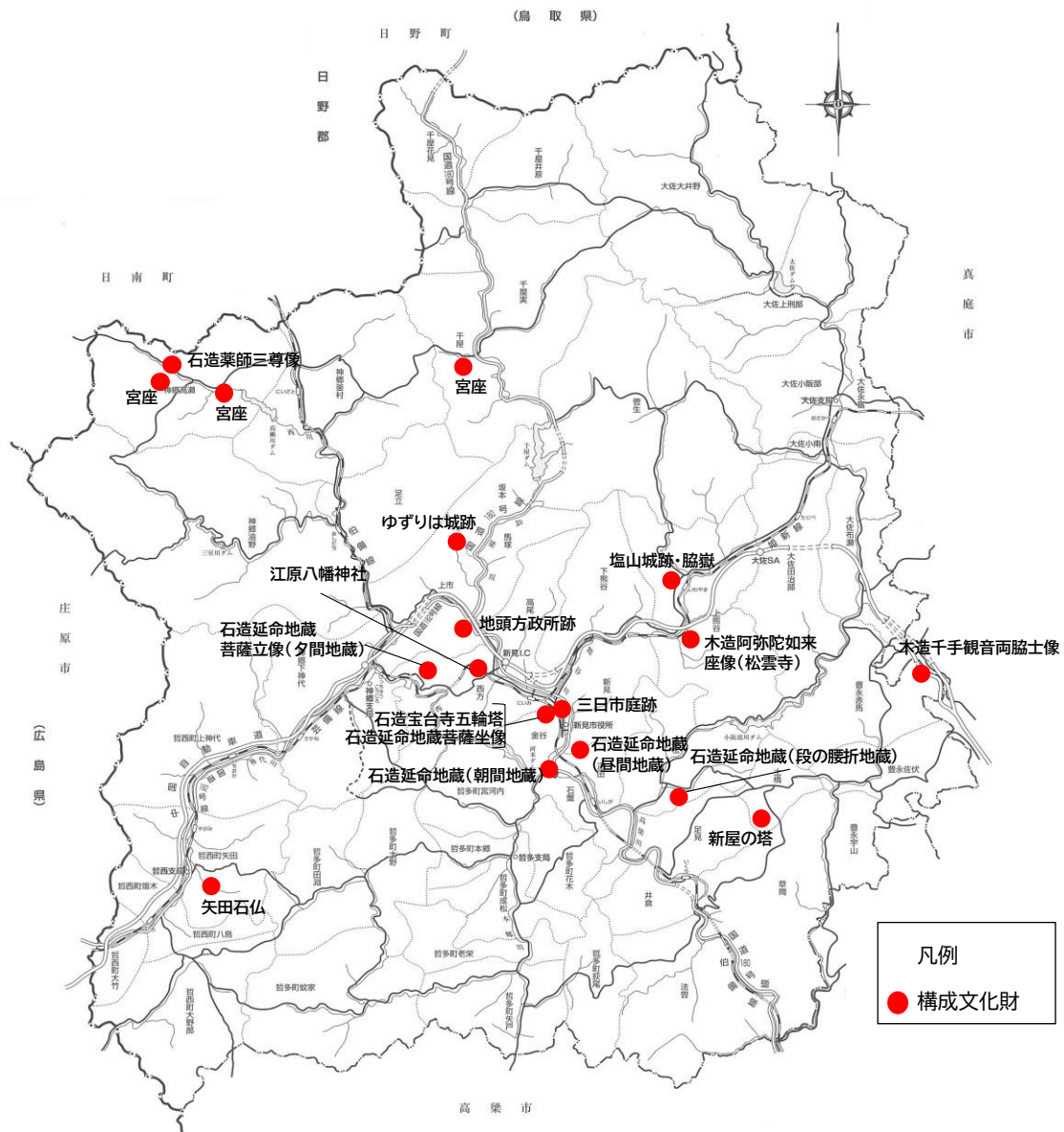


図 6-6 関連にいみ遺産群【5】の主な構成文化財の位置

■関連にいみ遺産群【5】「中世文化の花開く荘園のまち」の課題



- ・調査が十分ではない新見荘の関連物（同時期作成の石造物や仏像、遺跡など）が多く存在するため、保存や活用の上で詳細調査が必要です。
- ・新見荘などの荘園の歴史文化の魅力を伝える講座や子どもを対象にした学習機会が十分にできていません。
- ・新見荘の一部について案内する地域の方はいるが、総合的に案内できるガイドがいません。
- ・継承者不足により保存や管理が今後難しい仏像などについて、早急に記録作成が必要です。
- ・本市にある中世山城の情報発信が不十分です。

■関連にいみ遺産群【5】「中世文化の花開く荘園のまち」の方針

- ・新見荘の関連物の詳細な調査を推進し、活用につなげます。
- ・学校のふるさと学習と連携し、教材や資料を提案・提供します。
- ・新見荘のガイド養成講座を開催し、ガイドの活躍の場を設けます。
- ・本市の仏像等について現状を把握し、記録作成に取り組みます。
- ・本市の山城について既存の調査成果をもとに情報発信を推進します。

■関連にいみ遺産群【5】「中世文化の花開く荘園のまち」の措置

措置		置 5 番 章 号 措	措置の概要	取組主体					実施時期		
				地域	所有者	専門機関	支援団体	行政	前期	中期	後期
(5)-1	新見荘の関連物の詳細調査	1～3	新見荘の関連物の詳細調査を実施する。	△	△	○	—	◎			
(5)-2	ふるさと学習と連携した教材や資料の提供	6	ふるさと学習の推進を図るため、教職員を対象とした研修会の実施や資料提供を行う。	—	—	—	—	◎			
(5)-3	新見荘などについての学習機会の創出	8	新見荘などの歴史を学ぶ市民学習講座や史跡巡りツアーなど体験学習の機会を創出する。	—	—	—	—	◎			
(5)-4	新見荘ガイドの育成	9	新見荘ガイドの養成講座を開催し、ガイドの活躍の場としてガイドツアーを実施する。	—	—	△	○	◎			
(5)-5	仏像等の記録作成	—	保存や継承が危ぶまれる仏像などについて、記録作成をする。	△	○	○	—	◎			
(5)-6	山城についての情報発信	21	市内の山城についてホームページ等で情報発信し、市内外に周知する。	—	—	—	—	◎			

◎：主体となって取り組む ○：連携を行う △：連携体制を整えておく ：期間中に実施する ：恒常的に行う

【6】まちに残る藩主らの足跡と御殿町の成り立ち

江戸時代の新見市では、備中松山藩によって高瀬舟の航路が開かれ、その後新見藩は頻繁に洪水を起こしていた高梁川の改修を行い、河原を埋立て商人のまちを整備しました。現在の御殿町周辺の町並みに、その頃の名残を見ることができます。

【ストーリー】

慶長 5（1600）年の関ヶ原の戦い後、備中地方の毛利氏領が江戸幕府の直轄領となり、備中国奉行を派遣して治政しました。まず小堀正次が行い、続いて子の政一（遠州）が行いました。政一は、天叟寺^{てんそうじ}に寺領 10 石を寄進し、このほかに三尾寺などへ寺領の寄進し、また法曾焼を再興したと伝承されています。元和 3（1617）年、池田長幸が備中松山藩を立藩し、同藩の城下町（現高梁市）を整備し、本市においては日尾山八幡神社へ境内を寄進しました。2 代長常に跡継ぎがなかったため池田家は除封され、寛永 19（1642）年に成羽藩主であった水谷勝隆が備中松山藩主となり、水谷家が 3 代に渡り治政しました。2 代勝宗は、正保 2（1645）年に備中松山から新見の三日市まで水運を整備しました。勝宗は法華山観音堂【市】を建立し、日咩坂鐘乳穴神社に大太刀国重【市】を寄進するなど、水谷家 3 代にわたり、寺社を保護しました。また勝宗の弟の勝能は、寛文 4（1664）年に旗本となり、大佐小阪部に陣屋を構え、圓通寺を菩提寺と決めました。備中松山藩主から水谷家が除封された翌元禄 7（1694）年に、土地を測量し、その結果が同 8（1695）年に元禄検地帳【市】にまとめられました。その後、安藤家が藩主となり、石川家、板倉家と続き治政していきます。

同 10（1697）年、津山藩森家が断絶すると、備中松山藩などは分割され、2 代宮川藩主の関長治が新見藩を立藩しました。諏訪山（思誠小学校の御殿山グラウンド）に御殿（陣屋）を築き、その周辺に新たなまちをつくり、治世を行いました。高梁川の支流が集まる新見盆地はしばしば洪水が起こっていました。そこで長治は高梁川の流路を変えて固定し、それ以前の河原を埋め立て、現在の御殿町のもととなる商人の町と高瀬船の船着き場を整備しました。長治は西来寺を菩提寺として、関家の墓所を造営し、同寺には藩祖の長政の肖像画などが伝わっています。また城山にあった船川八幡宮を現在の明月山に遷宮させました。同宮の秋季大祭では御神幸の先駆として武器行列が練り歩きます。これは長治が大祭の警備に当たらせてことに始まるとされています。また 5 代藩主^{ながのぶ}長誠の時、藩儒である丸川松隠は、藩政参与を命じられ、藩政改革を行いました。高尾の熊谷川に井堰を設け、

水路を修理し田地への灌漑事業を行ったり、風木谷の洪水防止のために石畳の補強事業を行ったりしました。現在本市には、江戸時代の名残を残しつつ、旧太池呉服店店舗兼主屋や料亭の松葉、看板建築など近代や昭和時代の建物が多く残ります。



写真 6-33 圓通寺山門【市】



写真 6-34 元禄検地帳【市】



写真 6-35 御神幸武器行列

(船川八幡宮秋季大祭)【市】

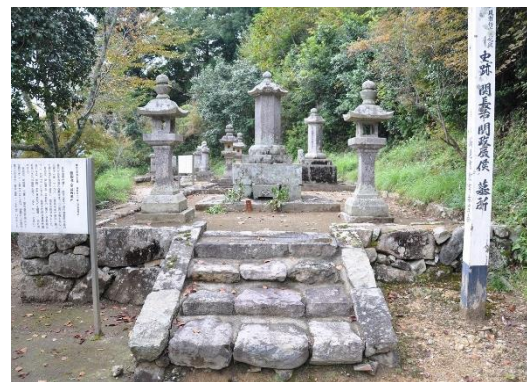


写真 6-36 関長治・関政辰墓所【市】



写真 6-37 戸田家住宅主屋【国登】



写真 6-38 御殿町の町並み

■関連にいみ遺産群【6】「まちに残る藩主らの足跡と御殿町の成り立ち」主な構成文化財

名称	区分(種別) 【指定区分】	概要
圓通寺山門	有形文化財 建造物 【市】	備中松山藩4代藩主の水谷勝宗の弟の勝能が寛文4(1664)年に設けた小阪部陣屋の門。明治時代の廃藩置県に際し、水谷氏の菩提寺である本寺に移して、山門に替えた。
戸田家住宅主屋	有形文化財 建造物 【国登】	戸田家はかつて庄屋で、関長治が新見藩を立藩した際、入部に尽力した。主屋は木造2階建て、入母屋造の棧瓦葺である。
旧太池呉服店 店舗兼主屋 (太池邸)	有形文化財 建造物 【未】	大正 2(1913)年の建物で、呉服などの販売を主とする百貨店的な位置づけで、現在の御殿町の中核的な商家である。現在は交流拠点施設となっている。
元料亭「松葉」	有形文化財 建造物 【未】	明治から昭和にかけて賑わった元料亭。往時をしのばせる建物の内部には、貴重な食器などの展示もある。
元大阪屋旅館 別館	有形文化財 建造物 【未】	明治から昭和30年代まで料理旅館をしていた大阪屋旅館の別館で、当時は、政財界人が多く訪れた。
梵鐘	有形文化財 美術工芸品 (工芸品) 【市】	明和4(1767)年に備中松山藩 10 代藩主の板倉勝武が済渡寺境内で鑄造させ寄進したものである。青銅製で、総高 111 cm、口径 55 cmである。
渡邊家文書	有形文化財 美術工芸品 (古文書) 【市】	渡邊家は、代々新見藩の用人として政務に当たった。残された文書は多岐にわたり、中でも日記類が多い。
元禄検地帳	有形文化財 美術工芸品 (古文書) 【市】	元禄 7(1694)年幕府の命で検地が行われた。新見・神郷・哲多・哲西地区の検地帳が残っている。
御神幸武器行列(船川八幡宮 秋季大祭)	民俗文化財 無形の民俗文化財 【市】	関長治が、御神幸の警備に当たらせたと伝えられる。毎年 10 月 15 日に長刀・鉄砲・弓矢などの武器を携える総勢 64 名からなる行列が、町を練り歩く。
関長治・関政辰墓所	記念物 遺跡(史跡) 【市】	関長治及び4代藩主の政辰の墓所は清瀧山西来寺にある。
高梁川川岸石垣	記念物 遺跡(史跡) 【未】	本町の高梁川河畔から北東約 180mの市街地に高度差 2 mほどの段差があり、関長治による河川改修以前の石垣が残る。この段差と石垣は、当時の高梁川の川岸であったことを示している。
高瀬舟船着場跡	記念物 遺跡(史跡) 【未】	高梁川河岸には石組や石段が残り当時の繁栄の名残がある。
城山(常山)	記念物 名勝地(名勝) 【未】	硬い流紋岩などからなる山塊でこの存在が高梁川の流れを変え、現在の御殿町のもととなった河原を作った。
御殿町の町並み	伝統的建造物群 【未】	関長治が高梁川の河原を埋め立てて造った商人の町。現在は御殿町と呼ばれ、なまこ壁の美しい建物や、三味線横丁、不規則に流れる水路など、当時の面影を残す。

■関連にいみ遺産群【6】「まちに残る藩主らの足跡と御殿町の成り立ち」の課題



- ・備中松山藩や新見藩、成羽藩などに関するにいみ遺産が多数現存しているものの、調査データが古くなっているものや、一部未調査のものもあるため把握調査が必要です。
- ・新見藩に関連する社寺や藩の城下町として栄えた御殿町の町並みの調査が不足しています。
- ・御神幸武器行列（船川八幡宮秋季大祭）などの調査や記録作成ができていません。
- ・旧太池呉服店店舗兼主屋など歴史的価値のある建造物に関して整備や積極的な活用ができていません。

■関連にいみ遺産群【6】「まちに残る藩主らの足跡と御殿町の成り立ち」の方針

- ・新見藩などの藩主関連物の把握調査が必要です。
- ・新見藩に関連する社寺や御殿町の建造物の調査を行います。
- ・御神幸武器行列（船川八幡宮秋季大祭）などについて調査や記録作成を推進します。
- ・旧太池呉服店店舗兼主屋など歴史的価値のある建造物の整備を図り、広く知ってもらうための活用の仕方を検討します。

■関連にいみ遺産群【6】「まちに残る藩主らの足跡と御殿町の成り立ち」の措置

措置	5 番 章 号 措 置	措置の概要	取組主体					実施時期		
			地域	所有者	専門機関	支援団体	行政	前期	中期	後期
(6)-1 藩主関連のにいみ遺産の把握調査	1～3	新見藩などの藩主関連のにいみ遺産（美術工芸品・遺跡（史跡）等）について調査を行う。	△	△	○	—	◎			
(6)-2 建造物把握調査	1～3	新見藩などに関連する社寺や御殿町の町並みなどの建造物に関して調査を行う。	△	△	○	—	◎			
(6)-3 御神幸武器行列（船川八幡宮秋季大祭）などについての調査や記録保存	—	御神幸武器行列（船川八幡宮秋季大祭）などについて調査の上で記録作成を行い、地域での伝承につなげる。	—	—	○	○	◎			
(6)-4 旧太池呉服店店舗兼主屋など歴史的価値のある建造物の整備・活用	—	建物の保存・修復を行い、公開施設として整備を行う。	△	○	—	—	◎			

◎：主体となって取り組む ○：連携を行う △：連携体制を整えておく ：期間中に実施する ：恒常的に行う

【7】 思誠につながる人々―教育のまち・新見の原点

教育の町と言える新見市の原点は中世の「たまがき書状」にあります。その後江戸時代には藩校「思誠館」が設立され、丸川松隠や山田方谷が教育に尽力し、私塾や寺子屋も広がりました。藩校は現在の思誠小学校になり、その精神は今も受け継がれています。

【ストーリー】

本市の教育の町としての原点は、中世新見荘の「たまがき書状」かもしれません。「たまがき書状」は代官の祐清の死後、生前に世話をしていた女性「たまがき」が東寺に対して形見分けの申し出をした書状で、識字率の低かった当時、地方の一女性が書いたものとして注目されます。このことは当時の本市における教育水準の高さを示しており、教育の町としての文化はすでに中世から始まっていたのかもしれません。

本市が教育の町であることを明確に示したのが江戸時代の思誠館の設立です。宝暦 5 (1755) 年、新見藩 3 代藩主関政富は、藩士子弟の育成と、庶民の教導のため、藩校思誠館を創立しました。県内の藩校では岡山藩、備中松山藩に次ぐ 3 番目の設立でした。政富は、孟子の言葉である「誠は天の道なり、思誠は人の道なり」の教えを理念として、藩校に「思誠」と命名しました。講堂の横に聖廟が置かれ、「大成至聖文宣王 神位」（孔子神位）の碑を祀りました。

5 代藩主長誠の時に、藩の厳しい財政状況の打開と教学の振興に尽くすため、丸川松隠を思誠館の督学として招聘しました。松隠は大坂の^{せきじゅ}碩儒である、中井竹山の門下生で、江戸の昌平坂学問所の督学に推薦された朱子学者でした。江戸時代後期に、藩校以外にも教育機関が広がり、庶民のための私塾や寺子屋が設けられました。松隠も新見藩内に回陽館を開塾し、藩内外の多くの門下生を受け入れました。松隠は、天保 2 (1831) 年に西阿知で亡くなり葬られ、雲居寺（新見）に、松隠の原墓が造立されました。

松隠に師事した山田方谷は、文化 2 (1805) 年、備中松山藩領西方村（現高梁市）で生まれ、5 歳から松隠のもとで学びました。嘉永 2 (1849) 年、方谷は藩政改革を進め、悪化した財政状況を 8 年で黒字に転換させました。晩年は小阪部村（現大佐小阪部）に移住し、明治 3 (1870) 年、小阪部陣屋跡に小阪部塾を開きました。同 5 (1872) 年に外祖父母の菩提寺である金剛寺（大佐小南）境内に、方谷庵【県】を営み度々訪れました。同 10 (1877) 年、方谷は、小阪部塾で亡くなりました。

方谷が亡くなった場所には、同 42 (1909) 年に、方谷の門下生などがオベリスク形の顕

彰碑「方谷山田先生遺蹟碑」を建て、方谷園【市】として公園化しています。また、松隠においても、昭和 4（1929）年に有志が顕彰碑「松隠丸川先生碑」を現在の思誠小学校内に造立しました。同小学校では現在、松隠が方谷に教授していた論語を小学生たちが学ぶ時間を設けており、松隠らの教えが今でも本市の教育を支えています。



写真 6-39 大成至聖文宣王 神位



写真 6-40 旧思誠館所蔵本



写真 6-41 丸川松隠書「水郷舎の額」



写真 6-42 扁額「知新館」



写真 6-43 方谷庵【県】



写真 6-44 方谷園【市】

■関連にいみ遺産群【7】「思誠につながる人々―教育のまち・新見の原点」主な構成文化財

名称	区分(種別) 【指定区分】		概要
方谷山田先生 遺蹟碑	有形文化 財	建造物 【未】	石碑は明治 42(1909)年小阪部塾で方谷が息をひきとった時、枕のあった地点に建てられたもの。撰文は三島中洲、題字は勝海舟、筆は金井之恭、刻石は藤田市太郎。
松隠丸川先生 原墓	有形文化 財	建造物 【未】	丸川松隠は、宝暦 8(1758)年、倉敷の西阿知で生まれた。5代新見藩主の関長誠は、藩政の立て直しには人づくりが必要と考え、松隠を思誠館の督学(校長)に迎えた。松隠の原墓は思誠館跡地近くの雲居寺にある。
松隠丸川先生 碑	有形文化 財	美術工芸品 (歴史資料) 【未】	昭和 3(1928)年、松隠への従五位追贈を記念して、翌年有志が、思誠小学校の一角に建立した石碑である。撰文は佐藤一斎、篆額揮毫は近衛文麿である。
大成至聖文宣 王 神位	有形文化 財	美術工芸品 (工芸品) 【未】	思誠館の聖廟に祀られていた孔子を表す神主(位牌)である。
旧思誠館所蔵 本	有形文化 財	美術工芸品 (歴史資料) 【未】	思誠館から思誠小学校に伝わった本である。新井白石が著した『藩翰譜』の写本で、内部に「新見藩」の押印がある。
丸川松隠書 「水郷舎の額」	有形文化 財	美術工芸品 (歴史資料) 【未】	書は額に付いている舟板に対する画賛と言われている。今は消えているがこの板には「水郷舎」と書かれていた。
扁額「知新館」	有形文化 財	美術工芸品 (歴史資料) 【未】	山田方谷が上市地内に設立した私塾「知新館」の名称を書いた書である。「知新」の名称は後の知新小学校(現上市小学校)に繋がる。
方谷庵	記念物	遺跡(史跡) 【県】	本庵は継志祠堂ともいい、山田方谷が明治 3(1870)年、小阪部に隠棲したのち、同 5(1872)年に外祖父母を葬る金剛寺境内に建立した小庵。
方谷園	記念物	遺跡(史跡) 【市】	山田方谷の終焉の地。明治 3(1870)年、山田方谷が小阪部陣屋を改装して小阪部塾を開いた。大正 12(1923)年に方谷園として開園され、園内には「方谷山田先生遺蹟碑」が建っている。
思誠館跡	記念物	遺跡(史跡) 【未】	思誠館は岡山県下で 3 番目にできた藩校。宝暦 5(1755)年に新見藩 3 代藩主関政富が設けた。思誠館の名称は、「誠は天の道なり、思誠は人の道なり、至誠にして動かざるもの未だこれあらざるなり」という孟子の言葉が由来。
矢吹家墓所	記念物	遺跡(史跡) 【未】	山田方谷の門人である矢吹久次郎をはじめとした旧庄屋の矢吹家の墓所である。久次郎は所有していた旧小阪部陣屋を方谷に提供し、その地で方谷は小阪部塾を開塾した。

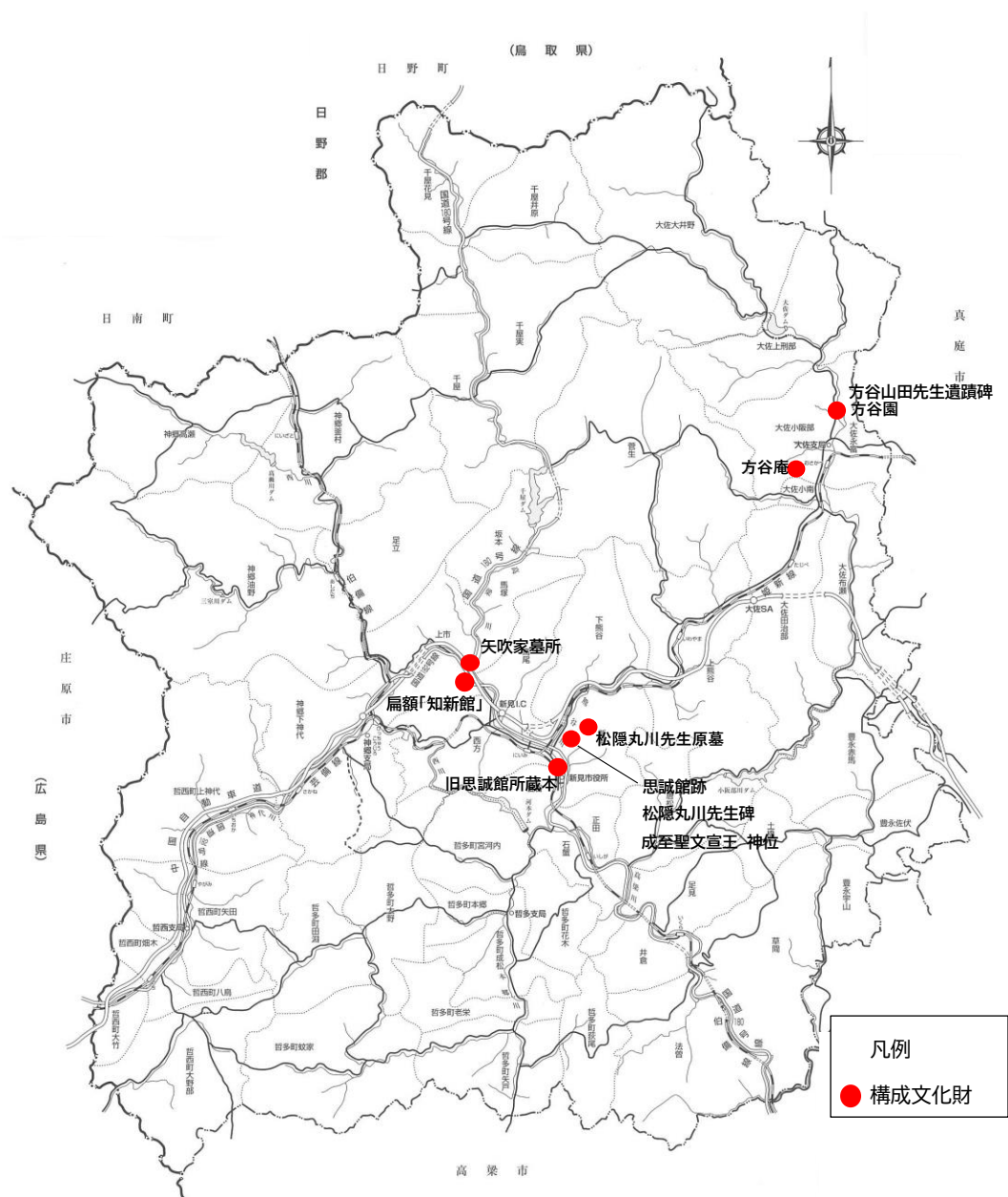


図 6-8 関連にいみ遺産群【7】の主な構成文化財の位置

■関連にいみ遺産群【7】「思誠につながる人々教育のまち・新見の原点」の課題

・新見藩において教育者であった丸川松隠や山田方谷の関連地を巡るルート設定ができていません。

・丸川松隠や山田方谷などに関連する文書や遺跡（史跡）などの把握調査が十分でなく、未調査のものも多いことから、調査が必要です。

・山田方谷などの魅力を伝える展示や小・中学生を対象にした学習機会が十分にできていません。

■関連にいみ遺産群【7】「思誠につながる人々教育のまち・新見の原点」の方針

・丸川松隠や山田方谷ゆかりの地に関する遺跡（史跡）を周知するため、関連史跡のルートの設定を推進します。

・丸川松隠や山田方谷などに関連した資料や遺跡（史跡）の把握調査を推進します。

・丸川松隠や山田方谷の資料の展示や、子ども向けの学習事業を検討します。

■関連にいみ遺産群【7】「思誠につながる人々教育のまち・新見の原点」の措置

措置	5 番 号 措 置	措置の概要	取組主体					実施時期		
			地 域	所 有 者	専 門 機 関	支 援 団 体	行 政	前 期	中 期	後 期
(7)-1 丸川松隠や山田方谷ゆかりの史跡ルート設定	26	各にいみ遺産を周遊できるよう、ルートを設定し、ホームページなどで情報発信を行う。	—	—	—	—	◎			
(7)-2 丸川松隠など藩儒に関する把握調査	3	丸川松隠などの関連資料や遺跡（史跡）について調査を実施する。	—	—	○	—	◎			
(7)-3 文化施設と連携した山田方谷などの広報事業	22	山田方谷記念館や公民館などで、山田方谷などを紹介する展示やイベントを開催し、魅力を発信する。	○	—	—	—	◎	—	—	—
(7)-4 小・中学生向け学習イベントの開催	7	丸川松隠や山田方谷の魅力を伝えるため、歴史めぐりなど体験学習ができるイベントを開催する。	○	—	—	—	◎			

◎：主体となって取り組む ○：連携を行う △：連携体制を整えておく ■：期間中に実施する — — —：恒常的に行う

【8】さまざまな奇祭と伝説

新見市の長い歴史の中で、人々は豊かな自然に対する感謝や畏敬の念を、さまざまな伝説や祭として表現してきました。それらは本市特有の変化をたどり、蛇形祭、蛇神楽、よはかり、かいごもり祭、神田祭、御神幸武器行列などの奇祭となって受け継がれています。

【ストーリー】

本市は、中国山地の山間部、高梁川の源流域に位置しています。また、県内有数の降雪地で、降雨による川の洪水や山の土砂崩れの脅威や日照りによる飢饉などにさらされてきました。人々はこのような天災を鎮め、豊作を祈って様々な祭を行ってきました。

江戸時代以前から続くとされる哲西町上神代の虫送り祈祷【市】は稲の害虫駆除と五穀豊穰、疫病退散・万民快樂を祈願します。豊永赤馬の日咩坂鐘乳穴神社のお田植祭【市】も、豊作祈願や害虫駆除として行われています。

本市には義民の慰霊のために蛇神楽が行われている地域があります。哲多町矢戸では宝暦年間（1751～1764）に、幕府による厳しい取り立てに凶作が重なったことから、庄屋の杉源五右衛門が民衆のために幕府に直訴を行い打ち首になりました。その報恩感謝として矢戸の蛇神楽【県】が7年に1度奉納されています。また動物の霊に対して鎮魂を行うものとして、哲西町上神代の綱之牛王神社の蛇形祭【市】があり、藁の大蛇を奉納しています。

本市は、交通の要衝でもあるため人々が行き交うことで他地域の祭りや芸能がもたらされました。備中神楽【国】は、江戸時代後期、西林国橋が、荒神神楽を民衆にわかりやすく伝えるため、記紀などの神話劇^{じんたい}を神代神楽に再編したものです。秋の収穫祭に行われ、翌年の豊作を祈念する神事であるとともに、民衆の娯楽となり、本市全域に広まりました。頭打ち【市】は、神郷・哲多・哲西地区で行われ、秋祭りに神社の御神幸の供奉楽として奉納されます。伯耆地方、備後地方、高梁市などから本市の各地域に伝わりました。

中世は名単位の狭いコミュニティであったため、神社での集会が重要でした。こういった集会が儀礼的に残り、宮座【市・国選択】として神郷高瀬の氷室神社や亀尾神社、千屋の倉嶋神社などに伝わっています。同様に生活に根付き伝承された伝統行事として、太鼓田植【県】があり、平安時代には全国的に行われていたもので、豊作祈願や時を表す歌を歌いながら、サゲが叩く太鼓に合わせ、早乙女が稲を植えていきます。

このように地域ごとに特色ある祭りや信仰が生活の一部として根付いており、祈りや感

謝を表現するものとして、地域の歴史文化と結びつきながら現代まで守り伝えられています。



写真 6-45 虫送り祈祷【市】



写真 6-46 日咩坂鐘乳穴神社のお田植祭【市】



写真 6-47 長作神楽（蛇神楽）



写真 6-48 よはかり【市】



写真 6-49 大山神祭り【市】



写真 6-50 かいごもり祭【市】

■関連にいみ遺産群【8】「さまざまな奇祭と伝説」主な構成文化財

名称	区分(種別) 【指定区分】		概要
矢戸の蛇神楽	民俗文化財	無形の民俗文化財【県】	江戸時代から伝わる式年神楽を中心とした伝統行事。藁で蛇を製作し、荒神を憑依させ、さらには託宣を経て、田畑を駆け巡る「蛇押し」が特徴的。
虫送り祈祷	民俗文化財	無形の民俗文化財【市】	稲の害虫駆除と五穀豊穡をあわせて、疫病退散・万民快楽を祈祷する行事。大玉を108個連ねて10mを超える大数珠を作り、それを約30分間絶え間なく回し、「南無阿弥陀仏」と唱え続ける。
日咩坂鐘乳穴神社のお田植祭	民俗文化財	無形の民俗文化財【市】	豊作祈願の神事で、獅子頭を牛に見立てて、牛鋤による耕田や苗(杉の葉)を持ち、奏楽に合わせて田植えを行う。杉の葉を持ち帰り、田畑に立てておけば豊作になるという伝承がある。
神田祭り	民俗文化財	無形の民俗文化財【市】	由井八幡神社の秋の大祭。別名「大食い祭り」とも呼ばれている。男性たちは女性がすすめるまま大盛り飯を何杯も食べなければならない。
大山神祭り	民俗文化財	無形の民俗文化財【市】	別名「一升飯祭り」とも呼ばれる。12戸の主が順番に祭りの大当番を引き受け、更に大官、小官、給仕人等の役割を決めて行われる。
よはかり	民俗文化財	無形の民俗文化財【市】	前年の春祭りに埋めておいた甕の石蓋をとり、その中の水の状態によって、その年の豊作を占うもので、「世の中の様子を推測する」ことから「世量り」と呼ばれる。
かいごもり祭	民俗文化財	無形の民俗文化財【市】	後醍醐天皇が隠岐へ流される途中に唐松の国司神社で休息したとき、地区の男性は天皇を警備するため神社に集まり、女性・子どもは戸を閉めて家にこもり火気を止めて慎んだのが由来。
綱之牛王神社の蛇形祭	民俗文化財	無形の民俗文化財【市】	藁で作った大蛇を棒杭に掛けて祭るもので、鎌倉時代から続き、12月第1日曜日に行われている。蛇の霊を鎮めるために祀ったものである。
長作神楽(蛇神楽)	民俗文化財	無形の民俗文化財【未】	義民の長作が処刑された後、次々と災いが起こったため、お堂を建てお祀りし、13年に1度蛇神楽を行うようになった。藁で蛇を作り、備中神楽を夜通し行い、明朝から、藁蛇を地域住民でかついで地域を練り歩く。
御前神社おいつき祭り	民俗文化財	無形の民俗文化財【未】	大佐布瀬の御前神社で旧11月朔日を中心に行われる五穀豊穡を祈る祭りである。甘酒を作るので、通称、甘酒祭りとも呼ばれている。
矢放ちの神事	民俗文化財	無形の民俗文化財【未】	哲多町荻尾の天津神社での儀式で、的に当たった位置から、1年の吉兆を占う。別名「ひきめの祈祷」。
三尾寺の会陽	民俗文化財	無形の民俗文化財【未】	春を呼び、無病息災を祈願する祭りで、3月の第1日曜日に行われる。当初は、まわしを締めた男性たちが宝木の争奪を行う裸会陽であったが、昭和58(1983)年からくじ引き会陽に変更された。

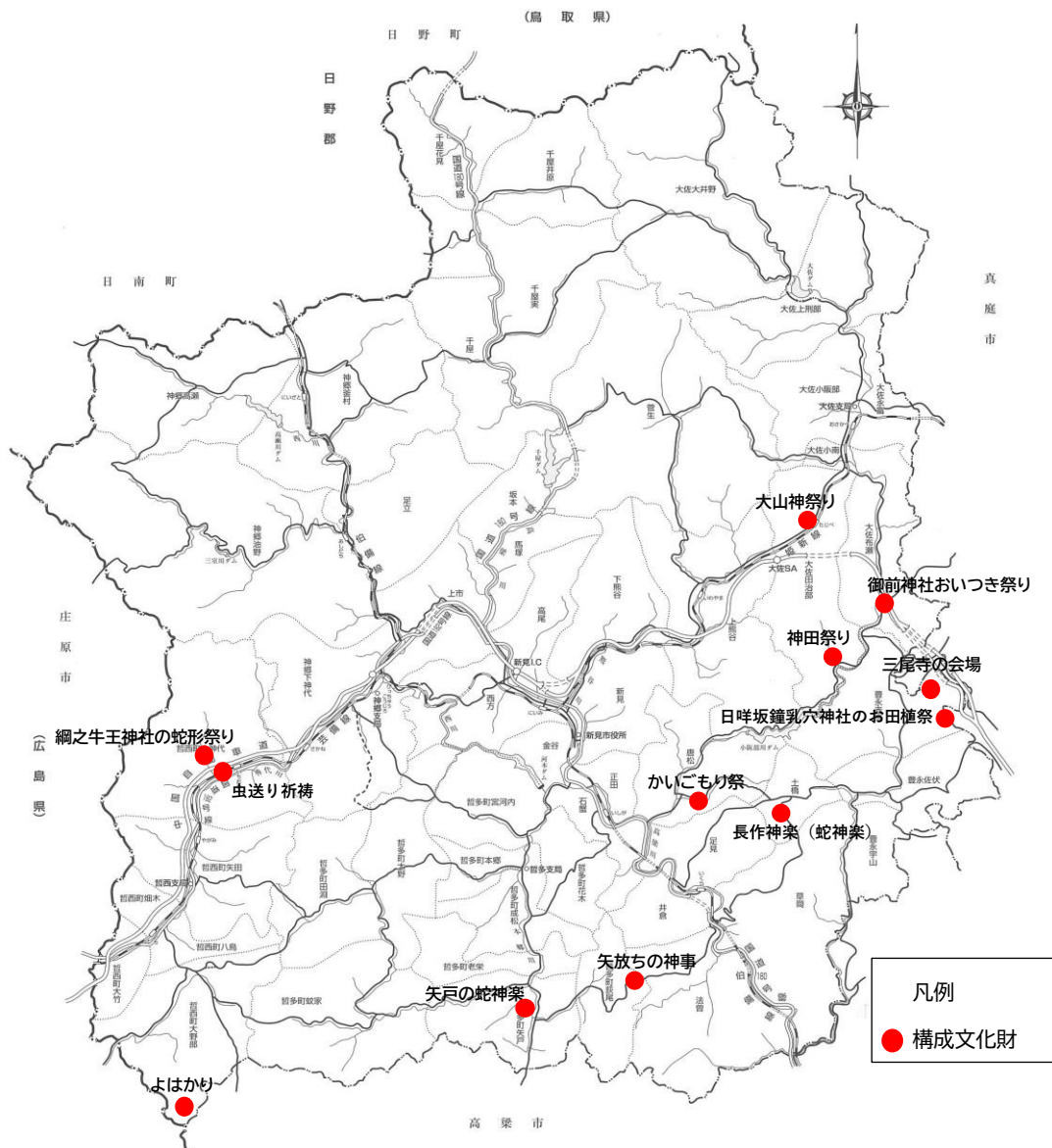


図 6-9 関連にいみ遺産群【8】の主な構成文化財の位置

■関連にいみ遺産群【8】「さまざまな奇祭と伝説」の課題

- ・無形の民俗文化財や祭礼行事について、把握調査や記録作成が十分にできていません。
- ・後継者不足によって実施が困難な団体への支援が必要です。
- ・無形の民俗文化財に係る情報発信が不足しています。

■関連にいみ遺産群【8】「さまざまな奇祭と伝説」の方針

- ・調査が不十分な祭礼行事の把握調査を実施します。
- ・担い手不足で、今後継承が困難な祭礼に関しては記録保存を推進します。
- ・祭礼行事を継承していくための支援を検討します。
- ・無形の民俗文化財に関して積極的に情報発信を行い、市内外からの見学や観光を促します。

■関連にいみ遺産群【8】「さまざまな奇祭と伝説」の措置

措置	5 番 号 措 置	措置の概要	取組主体					実施時期		
			地域	所有者	専門機関	支援団体	行政	前期	中期	後期
(8)-1 祭礼行事の把握調査	1~3	祭礼行事や祭礼に係る道具などの把握調査を実施する。	△	△	○	△	◎	■	■	■
(8)-2 祭礼行事の記録保存	—	継承困難な祭礼行事を記録して後世に残す取り組みを行う。	—	○	◎	○	◎	■	■	■
(8)-3 無形の民俗文化財の継承の支援	10	国・県・市・民間財団などの補助制度を周知し、継承を支援する。	—	—	—	—	◎	■	■	■
(8)-4 無形の民俗文化財の情報発信	21	市内外への広報を充実させ、見学や観光を促す。	△	○	—	—	◎	■	■	■

◎：主体となって取り組む ○：連携を行う △：連携体制を整えておく ■：期間中に実施する ■■■：恒常的に行う